

注意点1



スケールのポジションは複数覚えることが大切

このフレーズで用いられているメジャー・スケールとは、7つの音が図1-aのような規則に従って並んでいる音階だ。簡単に言えば、“ドレミファソラシド”のことだ。最も覚えやすいメジャー・スケールのブロック(注1)は、図1-bのブロック①が挙げられる。しかし、ギターには多数のフレットがあるので、このほかにもメジャー・スケールのブロックはいくつか存在するのだ。確かにC音(例えば6弦8フレットなど)を中心としたボックスは、Cメジャー・スケールとして覚えやすいが、この形だけでCメジャーを用いたメロディを複数作るのは至難の業。実際にはメジャー・スケールを構成する7音を正確に押さえれば、どこを弾いてもCメジャー・スケールとなるので(図1-b)、いろいろなポジションを研究しよう。

図1-a メジャー・スケールの音の並び

(例 Cメジャー) ◎ ルート音=C

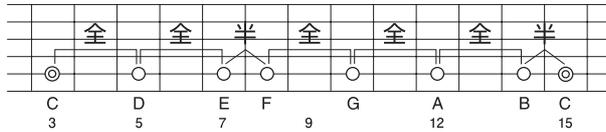
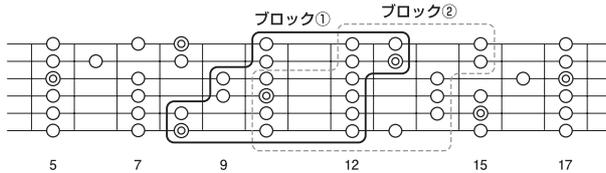


図1-b 指板上に広がるCメジャー・スケール



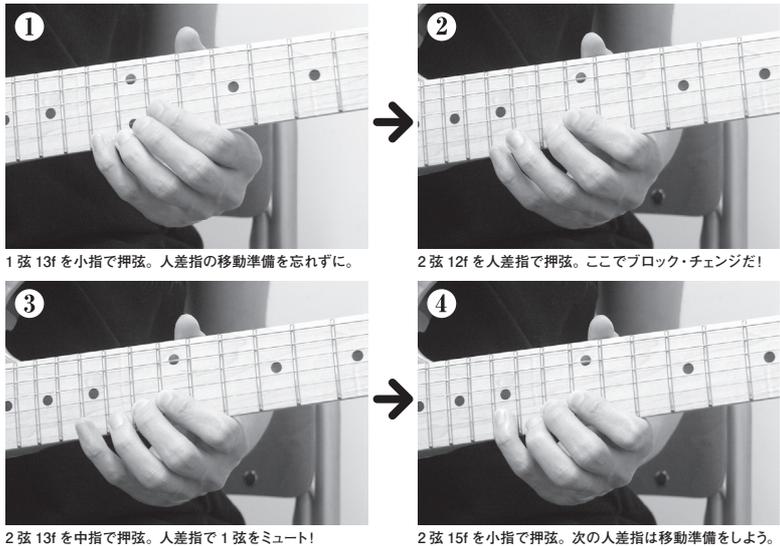
注1 ブロック:正式にはブロック・ポジションと呼ばれ、指板上をあまり左右に移動せずに(動いても1、2フレット程度)弾けるようにまとられたスケール・ポジションのこと。指板上から見ると、スケール・ポジションが、ブロックのように四角で囲まれているので、このように呼ばれている。他に、ボックス・ポジションとも呼ばれる。

注意点2



頭の中に指板をイメージしながら弾くべし

このフレーズは、図1-bのブロック①&②の2つを用いている。実際に弾く際には、TAB譜をただ追いつながら弾くのではなく、ふたつのブロックをイメージしながら練習することが大切だ。特に3小節目2拍目でのブロック・チェンジでは、意識を集中させてほしい(写真①~④)。このようなスケール練習を通じて、最終的に指板を目で追うのではなく、頭の中でイメージできるようになる。"頭脳で指板を想像し、左手でスケールを創造する"……少々カッコつけたことを書いたが(笑)、こういった目的意識を持って練習に望むべし! ちなみに、その昔筆者は、深夜の暗闇の中でスケール練習をやることで、フレット&スケール感覚を養ったこともあった。無意味にスケールを行き来するよりはオススメだ!



1 弦13fを小指で押弦。人差指の移動準備を忘れずに。

2 弦12fを人差指で押弦。ここでブロック・チェンジだ!

3 弦13fを中指で押弦。人差指で1弦をミュート!

2 弦15fを小指で押弦。次の人差指は移動準備をしよう。

~コラム7~

地獄の戯れ言

ここでは、メジャー・スケールと3つのマイナー・スケールの違いも勉強しよう。図2-aは上記で練習してきたCメジャーの音階。これに対して図2-bは“Cナチュラル・マイナー・スケール”だ。この2つの違いは、3番目(E)、6番目(A)、7番目(B)の音がそれぞれ1フレット分(半音)下がっていること。つまり同じトニック(基準の音、ここではC)のメジャー・キーに対して、マイナー・キーは(♭3・♭6・♭7)となるのだ。さらにCハーモニック・マイナー(図2-c)では3&6番目の音、メロディック・マイナー(図2-d)では、3番目の音が半音下がる。こうやって分析すると、最もマイナー感を演出する音は、3番目の音と言えるだろう。

メジャー・スケール vs マイナー・スケール

図2-a Cメジャー・スケール

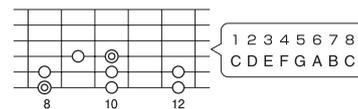


図2-c Cハーモニック・マイナー・スケール

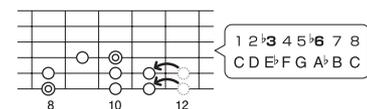


図2-b Cナチュラル・マイナー・スケール

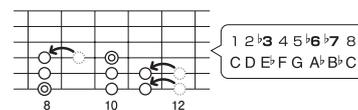


図2-d Cメロディック・マイナー・スケール

